茶羅会だより十一号

●11号の特集

懐かしい金戸の写真が集まりました。金戸が南山田地区の行政・教育・福祉の中心でした。

農協スタンドは南山田小学校の跡地に建っています。昭和三十年代末の写真であるが、グランドには老木の桜があり、一帯には警察所・桜ヶ池事務所があり、向かいには元南山田役場が建っていた。金戸の公民館となる宿直室・給食室は真夜中に「コロコロ曳」した。

1　あいさつ

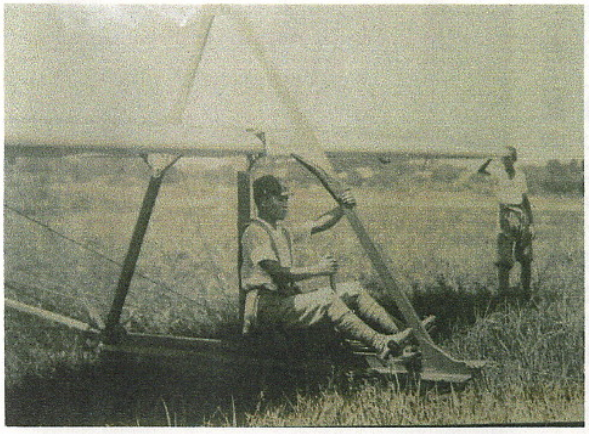
変わり行く金戸を惜しむわけではないが、わずか五〇年のうつり変わりは、戦後生まれの還暦を迎えた者にとっても、往時の光景を忘れてしまっていた。新聞編集会議にて各自より持ち寄った戦前・戦後の写真をつぶさに見るに、残すべき貴重な史料として編集しました。

「茶羅会だより」の写真はごく一部ですが、多くの写真は「ふるさと新聞60～65号」に記載していています。珍しい写真がありましたら紹介して下さい。

3　歴史探訪

金戸館の外堀の長堤や灌漑用の丸堤があり魚釣りをした。

グランドには桜の木が茂り、また土塁が築かれスキーをしたという。



立野原には飛行場があり、グライダーの訓練をしていた。

金戸と野口境に架けられた陸軍橋。桜の下を軍人さんが見上げながら射撃場へむかった。

南山田役場が公民館の地にあった。

戦前、金戸には「金戸の機場（はたば）」があった。村の婦女子の貴重な働き場であった。

冬の道はお互いにあいさつを交わしてすれ違ったものだ。

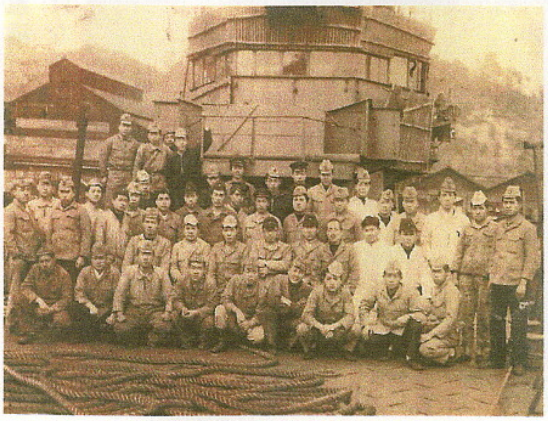
山の草刈りだが懐かしい顔ぶれだ。、

どこの姉妹か若夫婦かわかりますか。

吉三郎の茅葺き屋根。毎年冬前の「棟つつみ」が欠かせなかった

奉祝紀元二千六百年（昭和十五年）の軍人家族慰安大会。

畠嶋俊雄・外光（志願兵）兄弟が同時に出征した。



海軍志願兵の盛田清秀が乗艦した「利根」甲板上。